

2019年5月28日掲載 輸送経済新聞

第一貨物・久留米運送

第一貨物（本社・山形市、武藤幸規社長）と久留米運送（同・福岡県久留米市、二又茂明CEO）は3年前、京都府八幡市で施設の共同利用を開始。取扱量の大幅増や効果的な車両運用で大きな成果を上げている。

施設共用の目的は車両の相互活用など生産性の向上。京都での実施は、両社が京都市内に構えていた拠点が手狭になっていたため。新施設の立地は、荷主の拠点が市内から京都南部にシフトする傾向が見られることから、新規荷物の獲得が期待できる京都南部に絞り込んだ。

両社の施設共用第1号は、第一貨物が2012年に土地を取得しオープンした大宮支店（さいたま市）。京都は2拠点目で、久留米運送が京都南部の八幡市に

京都で共用「大きな成果」

物量増え、生産性も向上

京都市内の共同配送で効果的な車両運用が可能になった



面積約1万2000平方メートルの土地を取得し施設を建設。第一貨物がホム面積の約半分と事務所を借りる形でスタートした。

自転車率を高め

輸送品質向上

所在地は京都府八幡市野尻正畑2-2-1。第2京阪道路八幡東インターチェン

ジから3分。新名神高速道路や京奈和自動車道へのアクセスも良好。ホム面積は2590平方メートル。うち第一貨物が1155平方メートル、久留米運送が1435平方メートルを使う。第一貨物は京都の旧店より約2.4倍、久留米運送は3.5倍広くなり、荷役の作業効率が向上。パース教も増え、トラックの滞留時間は大幅に減少し、労働環境が改善した。

共同配送で収
益力がアップ

両社とも車両とドライバーを増やして自転車率を高め、輸送品質をアップ。幹線便数も増やし、東北向けは第一貨物に、九州向けは久留米運送に集荷物を集約し、長距離運行を効率化した。昨年9月からは配送エリア

京都南部の荷主に両社協働の取り組みに対する認知度が高まり、八幡市、久御山町、城陽市などで集荷が増えた。結果、発送量は両社とも旧店比で日量50トほど増加した。



業務時はホム境界部のシャッターを開放。両社が集荷した荷物を台車に載せ、互いのパースを行き来する

の集配業務へ回すことで売り上げが拡大。また、配送先で荷持ちが長時間発生する荷主を数社ピックアップし、共同配送に組み込むことで、限られたドライバーで効率良く仕事を回せるよう工夫した。両社は京都での施設共用で大きな手応えを感じている。